

# Tokyo Kosei Wind Orchestra

## 「特別演奏会」



写真記©



つくる。つつむ。つなぐ。

東京佼成ウインドオーケストラ

# 汐澤安彦氏を偲んで

2025 2.17 MON

東京オペラシティ  
コンサートホール：タケミツメモリアル

主催：一般社団法人東京佼成ウインドオーケストラ

助成：公益財団法人 ロームミュージックファンデーション

協力：一般社団法人東京吹奏楽団

Rohm Music  
Foundation  
ロームミュージックファンデーション



<https://www.tkwo.jp/>

本日は「特別演奏会～汐澤安彦氏を偲んで～」に  
お越しいただき、誠にありがとうございます。  
当初は、弊社初代常任指揮者の汐澤安彦氏をお迎えし、  
往年の名曲を披露いただく予定でしたが、  
本年1月7日ご逝去の報を受け、  
追悼演奏会として開催する運びとなりました。  
本公演の開催にあたり、氏が名誉指揮者としてご尽力された  
東京吹奏楽団の皆さま、そして氏に所縁のある指揮者の皆さまにも  
ご出演いただくこととなりました。  
急遽のお願いにも関わらずご快諾いただけましたこと、  
心より御礼申し上げます。  
また、東京音楽大学木田潤子様、河野彬様をはじめ、  
関係各所の皆さまにも多大なご尽力をいただきましたことは、  
感謝の念に堪えません。  
昨年5月23日に本公演出演のお願いに伺った際の  
先生の楽しそうな顔、多くの曲目案を語る嬉しそうな眼差しが、  
今も胸裏に浮かびます。  
今宵は、氏の築き上げた功績に想いを馳せ、  
ご来場いただいた皆さまと共に今後の吹奏楽界の発展のために、  
新たな誓いを立てる一夜となることを願っております。  
汐澤先生、数多くの名演をありがとうございました。  
ご冥福をお祈り申し上げます。

一般社団法人東京佼成ウインドオーケストラ  
理事長 勝川本久

## PROFILE



1938年9月3日生まれ。東京芸術大学器楽科卒業、同専攻科修了。トロンボーンを山本正人、指揮を金子登の各氏に師事。当初、バス・トロンボーン奏者として読売日本交響楽団に在団、傍ら、桐朋学園において斎藤秀雄氏より指揮法を学ぶ。1973年、民音指揮コンクール(現・東京国際音楽コンクール指揮部門)にて最高位を獲得。後に、渡欧。ベルリン音楽大学、カラヤンアカデミーにてさらに指揮者として研鑽を積む。帰国後、オーケストラ、吹奏楽、オペラ、合唱の各界で活躍。中でもオペラ「夕鶴」(團伊玖磨作曲)の指揮は数多い。これまで東京佼成ウインドオーケストラ、二期会合唱団、東京吹奏楽団など、各常任指揮者を歴任。また、東京音楽大学シンフォニックウインドアンサンブル指揮者として、永年、その任にあった。他方、ソニーをはじめ、東芝、ビクター、キング、ファンハウスなどで制作された数々の録音、録画等は余りにも多く、枚挙にいとまがない。1999年、日本吹奏楽学会／第9回日本吹奏楽アカデミー賞(演奏部門)受賞。2014年、2017年、ベルリンフィルハーモニーホールにて、再度、日独親善友好記念「第九コンサート」を指揮。オーケストラはもとより、吹奏楽界など幅広く活躍、プロの団体から学生・一般市民団体まで分け隔てなく“音楽に情熱を注ぎ込む”…その烈しいまでの熱い姿勢には定評がある。東京吹奏楽団名誉指揮者。東京音楽大学名誉教授。2025年1月7日没。



# MESSAGE

汐澤先生、ありがとうございました。ご冥福をお祈り申し上げます。

東京音楽大学の黎明期——指揮科の歴史がそれほどない頃に入学し、汐澤先生には大変お世話になりました。今活躍している指揮者に限らず、多くの東京音大生はお世話になったことでしょう。

1か月前にお顔を拝見し、「これは100歳まで生きられる、良かった」と嬉しい気持ちになりましたが、今思えば東京音大の定期演奏会に足を運んでいただいたのは、「広上お前頑張れよ、後は任したぞ」という意味もあったのかも知れません。厳しいレッスンでしたが、その裏側にある深い愛情を感じながら、礼儀作法、物の考え方、音楽に対する姿勢、全てを1から教わりました。腰巾着のように先生のカバン持ちをしていた頃を思い出します。先生との出会いがなければ今の指揮者広上淳一は生まれておりませんし、心に穴が開いた気持ちです。私の師匠は全員鬼籍に入り、最後が汐澤先生でした。泣き言を相談する先生もいなくなり、いよいよ私たちの世代が若者のために愛情を持って返していく世代になったとつくづく思います。

今日は所縁のある仲間たちと共に、この偉大な音楽家の功績を思い浮かべ、演奏会を楽しんでいただきたいと思います。



広上淳一

私の人生に希望の光を灯してくださったのは、間違いなく汐澤先生です。

指揮者を志しはしたものの音楽大学受験に失敗を繰り返し、やっとの思いで辿り着いた東京音楽大学指揮科でもなかなか先が見通せず、同級生であり親友、悪友の広上淳一さんと嘆き愚痴る日々を送っていました。そうした中で始まった指揮のレッスンでは、指揮台に立ってまだ一音も鳴らしていないのに

「ダメッ！」

「ダメッ！ もう一度。」

「何故ダメだかわかりますか？」

「何がダメだかわかりますか？」

そんなやりとりで私達は正直途方に暮れておりました。

しかし、汐澤先生の一言、一振りでレッスンでもオーケストラで



芸大入学時に先生から頂いたW.A.モーツァルト交響曲第36番『リンツ』の裏表紙に先生が書いてくださった達筆

もプラスでもどンドン音楽が変化、発展していくのを目の当たりにし、やがてそれが本当の愛の鞭だとわかり、皆が汐澤先生に心酔していきます。

指揮者とは何なのか？

音楽とは何なのか？

人生とは何なのか？

全てのことに光明を見出し

導いてくださった汐澤先生に心から感謝すると共に、

先生のご冥福をお祈り致します。

合掌



東京芸術大学指揮科客員教授

現田茂夫

我が恩師へ

汐澤先生、弟子の川瀬賢太郎です。高校2年生、当時16歳だった僕が調布にある先生のご自宅に初めてレッスンに伺ってからもう24年も経つのですね。川瀬は40歳になりました。あの日から今日まで本当にあっという間でした。あの時先生が僕を弟子にとってくれなければ間違いなく今の僕はいないでしょう。

先生のレッスンはそれはそれは厳しかったです。「はい!ダメ!」、「ちょっと!何やってんの!!」とほぼ毎回言われていたのを覚えています。一回のレッスンで数小節しか進まない事もありました。僕が髪の毛をヒョウ柄に染めてビリピリのジーパンで指揮台に上がろうとした時には「あなた、それで指揮者になりたいんですか?はい、次の人!」とレッスンさえてくれませんでした。当たり前です。当時の僕を殴ってやりたいくらいです。

先生は僕達に指揮者とは?という事を常に教えてくれた人でした。

先生、今になって当時口ずっぱく言われていた言葉がようやく身に染みてきました。遅すぎますか？

自分に自信がなくなったり、何かに縋りたくなるような瞬間に大学時代、汐澤先生から教わった事に立ち返る事が最近多くなりました。まだまだ教えてもらいたい事がたくさんあった…今、切にそう思います。でもそれはもうできないのですね。

僕は決して真面目な弟子ではありませんでしたが、これからも汐澤先生から学んだ「指揮者とは」を常に考えながら生きていきます。

先生、ありがとうございました。

寂しいです。



川瀬賢太郎

# PROFILE

指揮

## 大井剛史

東京佼成  
ウインドオーケストラ  
常任指揮者



東京佼成ウインドオーケストラ常任指揮者。東京藝術大学指揮科卒業、同大学院指揮専攻修了。2008年アントニオ・ベドロッチ国際指揮者コンクールで第2位入賞。ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉(現・千葉交響楽団)常任指揮者(2009~2016)、山形交響楽団指揮者(2009~2013)、同正指揮者(2013~2017)、東京佼成ウインドオーケストラ正指揮者(2014~2024)を歴任。このほか全国の主要オーケストラを指揮している。東京藝術大学音楽学部器楽科非常勤講師(吹奏楽)。尚美ミュージックカレッジ専門学校客員教授。

指揮

## 佐々木新平

東京吹奏楽団  
正指揮者



秋田県出身。東京学芸大学および桐朋学園大学にて指揮を専攻後、オーケストラ指揮者としてデビュー。その後ドイツミュンヘンへ留学しヨーロッパ各地にてさらなる研鑽を積んだ。数々のコンクールにおいても優秀な成績を収め2015年フランスのブザンソン国際指揮者コンクールでは本選最終の8人に出選。2015-19年東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団アソシエイト・コンダクター。2021-24年ヤマハ吹奏楽団常任指揮者を経て現在名誉指揮者。2024年11月東京吹奏楽団正指揮者に就任。吹奏楽界においても新たな境地を切り開く俊英として、益々注目が集まっている。

指揮

## 松井慶太

1984年青森県八戸市生まれ。東京音楽大学指揮科卒業。指揮を広上淳一、汐澤安彦の各氏に師事。16歳のときピアニストとしてポーランド国立クラクフ交響楽団と共演。第15回東京国際音楽コンクール(指揮)にて入賞・奨励賞受賞。2022年よりオーケストラ・アンサンブル金沢コンダクターを務め、2023年に同楽団定期演奏会にデビュー。2024年3月には名古屋フィル定期演奏会に代役指揮者として登壇、公演を成功に導いた。2011年~2018年東京混声合唱団コンダクター・イン・レジデンス、2023年4月より東京音楽大学作曲指揮専攻(指揮)特任講師を務める。



指揮・編曲

## 和田薫

映画・TV・舞台等の音楽から現代音楽まで、幅広いフィールドで活躍。東京音楽大学で作曲を伊福部昭に、指揮を汐澤安彦に師事。ニューヨーク国際現代音楽作曲家コンクールや日本交響楽振興財団作曲賞受賞。オーケストラを中心とした作品を国内外で発表すると共に、アニメ「犬夜叉」等数多くの音楽を担当する。吹奏楽作品としては、1984年度コンクール課題曲「吹奏楽のための土俗的舞曲」をはじめ、「吹奏楽のための交響的印象“海響”」「吹奏楽のための俗祭」など数多くの作品がある。なごさプラスソリストやブラス・ヘキサゴン、アメリカン・ウインド・シンフォニーオーケストラ、日本打楽器協会等からの委嘱作品も多い。



指揮

## 時任康文

武蔵野音楽大学器楽科卒業後、東京音楽大学指揮科に学ぶ。指揮を紙谷一衛、汐澤安彦両氏に師事。在学中より二期会、日生劇場を中心に音楽スタッフとして小澤征爾、秋山和慶、若杉弘各氏等のアシスタントを務める。1990年「東京の夏」音楽祭に於いて、カールマン作曲オペレッタ「チャールダッシュの女王」を指揮してデビュー。1996年度文化庁派遣芸術家在外研修員として渡伊。N.サンティ氏のアシスタントとして研鑽を積んだ。吹奏楽とも関わりが深く、東京佼成ウインド・オーケストラ、東京吹奏楽団等のプロフェッショナルな団体に度々客演指揮している。昭和音楽大学教授、武蔵野音楽大学講師。



指揮

## 船橋洋介

東京音楽大学ピアノ科卒業。同大学指揮研究科修了。高校1年時より汐澤安彦氏の薫陶を受ける。「ブラハの春」をはじめ数々の国際コンクールで入賞。特に声楽・合唱付き作品で深い洞察力を発揮。フェドセーフ、ロジェストヴェンスキー等からの絶大な信頼を受け、数多くのステージ制作に携わる。2008年、P・ブノワ《盛儀のミサ》を日本初演、その功績によりブノワ財団より名誉称号が授与された。以来、ブラハ響への客演指揮し成功を収めるなど活動範囲を海外にも広げている。国内では東京都響、大阪フィルをはじめ、ほぼ全てのプロ・オーケストラとの共演を重ねている。現在、宮城学院女子大学音楽科教授。



指揮

## 和田一樹

東京都中野区出身。尚美学園大学作曲コース、東京音楽大学指揮科を卒業。指揮を汐澤安彦に師事。2015年第6回ブカレスト国際指揮者コンクールにて準優勝。2017年にヤシ・モルドヴァ・フィルハーモニー管弦楽団を指揮しヨーロッパデビュー。楽団の総監督より「最年少最優秀客演指揮者」の称号を受けて以降、毎シーズン客演している。ドラマ「のためカンタービレ」、映画「マエストロ!」等で指揮指導を担当。これまでに、都響、新日本フィル、東フィル、東響、日本フィル、東京佼成ウインドオーケストラ、群響、神奈川フィル、などと共演、国内外で指揮活動を展開している。



MC

## 中橋愛生

東京佼成  
ウインドオーケストラ  
楽芸員

1978年生。東京音楽大学作曲指揮専攻および同大学院を首席で修了。これまでに日本音楽コンクール作曲部門(管弦楽作品)第三位、日本管打・吹奏楽学会アカデミー賞(作編曲部門)、日本吹奏楽指導者協会「下谷奨励賞」を受賞。作品は東京佼成ウインドオーケストラ、シエナ・ウインド・オーケストラ、陸上自衛隊中央音楽隊などによって初演されている。これまでに作曲を吉田峰明、池辺晋一郎、湯浅譲二、西村朗の各氏に、指揮法を汐澤安彦氏に師事。現在、東京音楽大学教授、国立音楽大学・日本大学芸術学部各講師、日本バンドクリニック委員会委員、日本管打・吹奏楽学会理事、日本管楽芸術学会正会員。2008年よりNHK-FM「吹奏楽のひびき」パーソナリティ。



## PROGRAM | プログラム

### 第 1 部:東京吹奏楽団

- 松井慶太 : 主よ、人の望みの喜びよ  
／J.S.バッハ／A.リード 編／汐澤安彦 監修
- 船橋洋介 : 序曲「バラの謝肉祭」／J.オリヴァードーティ
- 和田一樹 : 吹奏楽のための民話／J.A.コーディル
- 佐々木新平 : エルザの大聖堂への行列〈歌劇「ローエングリン」より〉  
／R.ワーグナー／L.カイリエ 編／汐澤安彦 監修

### 休憩 Intermission

### 第 2 部:東京佼成ウインドオーケストラ

- 時任康文 : 狂詩曲「スペイン」／E.シャブリエ／M.H.ハインズレー 編
- 和田薫 : バンドのための「ゴジラ」ファンタジー／伊福部昭／和田薫 編

### 合同演奏

- 大井剛史 : 交響詩「ローマの松」／O.レスピーギ／G.M.デューカー 編
  - I. ボルゲーゼ荘の松
  - II. カタコンブ付近の松
  - III. ジャニコロの松
  - IV. アッピア街道の松

#### 注意

- ・本コンサートは、会場の観客の皆様を撮影する場合がありますこと、および収録された映像がインターネット、DVDなど各種媒体で公開・販売されることを予めご了承ください。
- ・ホール内での飲食、許可のないビデオ・写真撮影、および携帯電話・スマートフォンでの撮影はご遠慮ください。
- ・携帯電話・時計のアラームなど音の出る電子機器は電源をお切りください。
- ・演奏中のプログラムをめくる音、お客様同士での会話など音を発する行為は他のお客様のご迷惑となる場合がございますのでご配慮ください。
- ・演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。

本公演に関するアンケートへご協力ください。



## PROGRAM NOTES | 曲目解説 — 中橋愛生

J.S.バッハ 作曲／A.リード 編曲／汐澤安彦 監修

### 主よ、人の望みの喜びよ

汐澤がアンコールで必ずといっていいほど愛奏していたのが、この一曲。作曲したヨハン・ゼバスティアン・バッハ(1685-1750)は、もはや説明不要といえる「音楽の父」と呼ばれるバロック期の大作曲家。そのバッハが1723年に作ったとされる教会カンタータ「心と口と行いと生活で BWV147」の第6曲「イエスこそわが喜び」および第10曲「イエスは変わらざるわが喜び」(両曲は歌詞が違うのみ)が、「主よ、人の望みの喜びよ」という題で知られている。この曲はバッハの完全なオリジナルではなく、合唱で歌われるメロディはヨハン・シヨップという別の作曲家が作った「心はずませ」という曲で、これは元々は4/4拍子だった。バッハはこれを3/4拍子に変更した上で、管弦楽による9/8拍子での伴奏を書き加えて新しい作品としている。1拍を2分割する歌と3分割する管弦楽により、キリストの神性と人性(2)と、父と子と精霊の三位一体の神(3)とを同居させたと見てもいいだろう。

吹奏楽に編曲したのは、「吹奏楽の神様」とまで呼ばれるアメリカの作曲家アルフレッド・リード(1921-2005)。第二次世界大戦中に第529空軍軍楽隊に所属したことで初めて吹奏楽に接点を持ち、終戦後はジュリアード音楽院で作曲を学び、最終的に吹奏楽のために代表作「アルメニアン・ダンス」など200曲以上を遺している。リードによる「主よ、人の望みの喜びよ」の編曲は、合唱が無くとも原曲の持つ温かみを失うことなく、管楽器の息吹で新たな音楽へと生まれ変わらせることに成功している。この編曲はサウスカロライナ州にあるファーマン大学のために作られたものだが、楽譜が出版されたのはリードが東京佼成ウインドオーケストラに招かれて初来日したのと同じ1981年のことである。

J.オリヴァードーティ 作曲

### 序曲「バラの謝肉祭」

汐澤が遺した日本の吹奏楽界における業績のうち、特に多くの人に直接の影響を与えたのが数々のレパートリーの紹介だろう。まだ海外の作品の情報が簡単には手に入らなかった1970年代、東京佼成ウインドオーケストラをはじめとした様々なバンドでLPレコードに収められた楽曲たちは、紛れもなく現代日本の吹奏楽の礎となったものであり、今なお愛奏されている曲も数多い。膨大な量のそのレパートリーの中から今回選ばれたのが、ジョ

セフ・オリヴァードーティ(1893-1977)のこの曲だ。

オリヴァードーティはアメリカの作曲家として認知されているが、生まれはイタリア南部の村コルターレである。音楽一家に生まれ、7歳のときにはバンドのメンバーとして活動している。本格的に音楽を学び1911年、18歳のときにアメリカに渡り1924年にアメリカの市民権を得た。オーボエ奏者として活躍し、有名な吹奏楽指導者ハロルド・バックマンが率いたプロの吹奏楽団「ミليون・ダラー・バンド」や、シカゴ交響楽団などで演奏している。その傍ら、作曲も行ない数々の吹奏楽作品を発表、マーチも数多く遺しているが、日本では「イサターの凱旋」や「ボンセ・デ・レオン」といった作品がよく知られている。イタリア出身らしくオペラの序曲のような優雅な音楽で、20世紀前半に作られた吹奏楽作品としては古典的な作品ということもあり、重要な作曲家に位置づけられている。そんな中で特に代表作として知られている「バラの謝肉祭」は1947年に作られたもの。タイトルに「謝肉祭」と付けられているが、なにか特定のイベントを描いたわけではないようだ。ゆったりとした序奏に続く快活な主部、三拍子の舞曲風の間部など、スッペのオペレッタの序曲に通ずる演奏様式が求められる、気品のある小品だ。

J.A.コーディル 作曲

## バンドのための民話

汐澤が愛したアメリカの古典的名曲からもう一曲選ばれたのが、ジム・アンディ・コーディル(1932-)作曲のこの作品。汐澤は2012年にも「温故知新」と題した東京吹奏楽団とのCDレコーディングに「バラの謝肉祭」とともにこの曲を選んでいる。

コーディルはケンタッキー州アシュランドに生まれたアメリカの作曲家。5歳のときから父親にトランペットを教わり、18歳のときに高校選抜オーケストラに加わり協奏曲のソリストも務めるなどしたものの、関心は作曲に移っていった。モアヘッド州立大学で学士号、マーシャル大学で博士号を取得して作曲を学んだほか、1959年にはイーストマン音楽学校でフレデリック・フェネルのセミナーを受講し、吹奏楽指導への理解を深めている。1954年以来、公立高校のバンドを指導したのち、1968年から1997年までケンタッキー州バイクビル大学でトランペットと音楽理論、吹奏楽指導法を教えた。

コーディルの作品のほとんどは中高生バンドのために書かれており、技術的にも音楽的にも平易だが、同時に格調高さも保っている。日本でも「ランドマーク序曲」などが知られているが、その中でも別格なのが、この「バンドのための民話」だろう。「民話」は「folklore」の訳で、特定の物語を描写しているわけではない。この語は「民間伝承」や「民俗学」とも訳され、単に「語り継がれるもの」という抽象的な意味合いで付けられていると考えられる。曲を特徴づけるのは、イギリス、特にウェールズ地方に伝わる音楽の強い影響を受けた、とされる旋法性。序奏に続いてクラリネットによって奏でられる主題に代表されるような、各楽器の特性を活かしたオーケストレーションも見事。1964年に初出版された直後の1965年、日本では吹奏楽コンクールで演奏されたのをきっかけに大流行となり、現在でもスクール・バンドの基本と言われるほど定着している。なお、この曲は2008年に新版が出た際にフレデリック・フェネルに献呈されている。

R.ワーグナー 作曲／L.カイリエ 編曲／汐澤安彦 監修

## エルザの大聖堂への行列〈歌劇「ローエングリン」より〉

汐澤はもちろん吹奏楽だけの指揮者ではなく、管弦楽分野でも活躍していた。その経験は、当然ながら吹奏楽における管弦楽トランスクリプション作品の演奏にも十分に発揮された。特に重厚かつ壮大な音楽は汐澤の得意とするところであり、その美質が味わえる一曲として選ばれていたのが今作である。

リヒャルト・ワーグナー(1813-1883)はロマン派時代のドイツの作曲家。主にオペラを発表しており、その数々の大規模な作品は「楽劇」とされる総合芸術として独自の地位を確立させている。今回の演奏曲「エルザの大聖堂への行列」は1848年に作曲され1850年に発表された歌劇「ローエングリン」に登場する楽曲。作曲されてから上演されるまでに期間が空いているのは、革命運動に加担したとしてワーグナーは指名手配されて亡命したためであり、それを支援した作曲家フランツ・リストによって「ローエングリン」は初演されている。「白鳥の騎士」ローエングリンとヒロインであるエルザとの婚礼の場面である第2幕第4場で演奏されるのが、この音楽。オペラ原曲ではエルザが礼拝堂に向かい、クライマックスに差しかかったときに敵役の魔女によって中断されてしまう音楽なのだが、この吹奏楽編曲版では原曲にはない壮大なフィナーレが書き加えられており、大団円を迎える。時としてオルガンが加えられたり、原曲同様に合唱を加えて演奏されることもあるが、吹奏楽だけで演奏しても効果的なように編曲されている。なお、このフィナーレの追加が行われているのは吹奏楽編曲版だけではなく、他の第三者によるピアノ編曲版やオルガン編曲版でも、同様に単独演奏用にフィナーレの加筆が行われている。

吹奏楽への編曲を行なったルシアン・カイリエ(1891-1985)は、フランスで生まれアメリカで活動した編曲家。編曲法をバリ・ギャルド＝レピュブリケーヌ吹奏楽団指揮者であるガブリエル・パレに師事し、フィラデルフィア管弦楽団などの編曲スタッフとして活躍した。

E.シャブリエ 作曲／M.H.ハインズレー 編曲

## 狂詩曲「スペイン」

汐澤が吹奏楽で好んで演奏した管弦楽のトランスクリプションの中でも、多彩な変化が求められる楽曲がこの「スペイン」だろう。

エマニュエル・シャブリエ(1841-1894)は、フランスの作曲家。幼い頃から音楽の才能を見せていたが、父親の勧めにより法学を学び20歳のときに内務省に就職。その後も音楽は独学で続けながらフォーレやショーン、ダンディといった作曲家、更にはヴェルレーヌやモネ、セザンヌなどの美術家とも交流を持った。1880年にミュンヘンでワーグナーの「トリスタンとイゾルデ」を聴いて強い感銘を受けたシャブリエは、39歳にして作曲家として生きていくことを決意、内務省を退職する。53歳という若さで病死するまでの短い期間での活動のためそれほど多くの作品が知られているわけではないが、作品にはドビュッシーやラヴェル、プーランクらがシャブリエの影響を受

けたと語るほどの個性がある。

シャブリエの作品の中で傑出した存在であるのが、本日演奏される「スペイン」。1882年に妻と共に四ヶ月滞在したスペインの印象を基に作曲された管弦楽曲である。スペインで触れた情熱的な民族舞曲や奔放なジプシー音楽の影響が強く、冒頭部ではスペインの舞曲で速い三拍子による「ホタ」のリズム、途中で伸びやかに歌われる旋律ではスペイン南部の港町マラガに伝わる舞曲「マラゲーニャ」の様式が採り入れられるなど、異国情緒あふれながらもフランスの色彩が豊かな作品となっている。

吹奏楽への編曲を行なったマーク・ヒューバート・ハインズレー(1905-1999)は、アメリカで活動した高名な吹奏楽指導者。インディアナ大学で学んだ後に母校の吹奏楽団を指揮し、その後はイリノイ大学に移籍し1934年から1970年まで同大学の吹奏楽団を指導した。ハインズレーは同バンドのために多数の編曲を手掛けて、それらは世界中の吹奏楽団の重要なレパートリーとなっている。名門として知られるイリノイ大学シンフォニック・バンドは120名ほどの大編成で知られており、ハインズレーの編曲はその大編成を活かすようなオーケストレーションとなっている。

伊福部 昭 作曲／和田 薫 編曲

## バンドのための「ゴジラ」ファンタジー

汐澤の有名な業績といえば、1983年に伊福部昭「SF交響ファンタジー」全3曲を初演したことも忘れてはならない。「ゴジラ」といった東宝特撮映画の音楽を演奏会用の組曲としたもので、映画ファン、特撮ファンのみならず広くに愛される珠玉の作品として知られている。

伊福部昭(1914-2006)は北海道で生まれ、独学で作曲を学んで海外で高く評価されて楽壇デビュー、91歳で亡くなるまでに多数の優れた作品を発表している。力強くも品格の感じられる作風で、「シンフォニア・タブカーラ」といった管弦楽作品も高く評価されているが、一般的には先述のような映画音楽でよく知られている。また、伊福部は教育者としても優れており、1946年から53年まで東京音楽学校(現:東京藝術大学)講師、1974年から東京音楽大学教授、76年から87年まで同学長を務めており、その門弟には芥川也寸志、黛敏郎、矢代秋雄、池野成などがいる。汐澤は東京音楽大学で伊福部と共に教えた教員であり、それ故に伊福部作品の演奏をライフワークと位置付けている、と筆者に語っていた。

今回演奏される「ゴジラ」ファンタジーは、先述の「SF交響ファンタジー」とは異なるもので、東京音楽大学の伊福部の門下生であり指揮を汐澤に学んだ和田薫(1962-)が吹奏楽用に1999年に編曲した。映画「ゴジラ」シリーズの音楽から「平成ゴジラのテーマ」、「初代ゴジラのテーマ」、「レクイエム(ゴジラvsデストロイアより)」の3曲が選ばれ、最後は「平成ゴジラのテーマ」に戻る、という構成となっている。なお、これは汐澤の指揮での東京佼成ウインドオーケストラによるCDレコーディングのために作られたもので、同時に俗に「自衛隊マーチ」と呼ばれる楽曲などを中心に構成された「ゴジラ」マーチも作られている。

編曲した和田は先述の通り伊福部にも汐澤にも縁の深い作曲家で、幅広い分野に作品を提供している。特に「犬夜叉」といったアニメのための音楽が知られているが、自身が吹奏楽部出身であったこともあり吹奏楽にも

造詣が深く、学生時代の1984年には作品「吹奏楽のための土俗的舞曲」が全日本吹奏楽コンクールの課題曲にもなっている。

O.レスピーギ 作曲／G.M.デューカー 編曲

## 交響詩「ローマの松」

汐澤が吹奏楽のコンサートでメインに据える曲は、管弦楽曲からのトランスクリプション、それも壮大なスケールを持つものであることがほとんどだった。チャイコフスキー「1812年」、ムソルグスキー(ラヴェル編)「展覧会の絵」、ストラヴィンスキー「火の鳥」といった曲の名演の数々を思い出す人は多いのではなかろうか。使用する編曲譜もアメリカの大編成バンドを想定した、とすれば現代日本のトレンドに反するような骨太なトランスクリプションによるものを好んで使い、こと音楽大学のバンドなどの場合は奏者をとにかく重ねることで重厚なサウンドを織りなしていった。そんなスペクタクル溢れる音響空間「汐澤節」を最も豊かに体現できるのが、大編成で演奏される「ローマの松」であることに異を唱える人はほとんどいないだろう。

オットリーノ・レスピーギ(1879-1936)はボローニャに生まれローマで没したイタリアの作曲家。ロシアでリムスキー＝コルサコフに師事し、1913年にローマのサンタ・チェチーリア音楽院に作曲科の教授として招かれて以来、長らくローマに住み、この街を愛していたという。レスピーギはグレゴリオ聖歌やイタリアの古い音楽を研究したことで知られている。本日演奏される「ローマの松」は「ローマの噴水(泉)」および「ローマの祭」と共に「ローマ三部作」として知られるものであるが、これらにもやはり数多くのイタリア古楽の旋律や雰囲気が見られる。

「ローマの松」は、1924年に書かれたもの。切れ目なく演奏される4つの楽章で構成されており、ローマの松のある四カ所の風景をそれぞれ楽章のタイトルとしているが、単にその場所を描写しているのではなく、この松の樹々が眺めてきたであろう長大なローマの歴史や思想までもが織り込まれている。本日は汐澤が愛用していた、イリノイ大学で教鞭を執っていたアメリカの吹奏楽指導者ガイ・マクスウェル・デューカー(1916-1998)による編曲版を使用する。

- |               |   |
|---------------|---|
| I. ボルゲーゼ荘の松   | 長い歴史を持つ名門貴族ボルゲーゼ家の広大な敷地は、後に公園となった。そこにある松の樹の下で子供たちが遊んでいる情景。                                |
| II. カタコンブ付近の松 | 古代ローマの地下墓地には、古来よりのキリスト教徒たちが眠る。近くに生える松の樹は、彼らの永年の哀しみと祈りの聖歌を聴いている。                           |
| III. ジャニコロの松  | ローマ南西部にある、美しい風景を見渡すジャニコロの丘の月明かりの夜。やがて、ナイチンゲールの鳴き声とともに、夜が明けてくる。                            |
| IV. アッピア街道の松  | 全ての道はローマに通ずと謳われた石畳の街道の傍らに生える松は、そこを通る者を見続けて来た。古代にはローマ軍の勇壮な行進も。朝霧の中から現れた隊列は、近づき、勝利を高らかに告げる。 |

## PROFILE | 楽団プロフィール



### 東京佼成ウインドオーケストラ Tokyo Kosei Wind Orchestra

1960年5月「佼成吹奏楽団」として発足し、その後1973年に「東京佼成ウインドオーケストラ」へ改称。2022年4月より「一般社団法人東京佼成ウインドオーケストラ」として活動する日本が世界に誇るプロ吹奏楽団。2024年4月から大井剛史が第6代常任指揮者、中橋愛生が楽芸員に就任。桂冠指揮者にフレデリック・フェネル、特別客演指揮者にトーマス・ザンデルリンク、首席客演指揮者に飯森範親を擁している。吹奏楽オリジナル作品、クラシック編曲作品やポップス、ポピュラーまで幅広いレパートリーの演奏を通し高い音楽芸術性を創出し、多くの人を楽しめる管楽合奏を展開、各地のコンサートで好評を博している。また多くのレコーディング、メディアを通し、吹奏楽文化の向上・普及・発展に尽力している。



### 東京吹奏楽団 Tokyo Wind Symphony Orchestra

東京吹奏楽団は、澤野立次郎氏と東京藝術大学教授・故山本正人氏を中心に河合楽器製作所河合滋社長（当時）、中山富士雄氏（東京藝術大学教授、日本トランペット協会創設者）他多くの方の協力を得て、1963年10月10日プロの吹奏楽団として創立。1993年日本吹奏楽学会より「第3回日本管打・吹奏楽アカデミー賞」（演奏部門）を受賞。2012年9月韓国国際ウインド・バンド・フェスティバルに招待され、作曲家フィリップ・スパーク氏指揮によるガラ・コンサートにて好評を得る。2015年東京にてフィリップ・スパーク氏再共演を果たし、この時のライブCD「Reflections」が、レコード芸術誌2016年3月号にて特選盤に選ばれる。2021年より豊島区国際アートカルチャー特命大使／SDGs特命大使となる。東吹は、「吹奏楽・音楽教育の普及拡大」を目標に活動を続ける。

## MEMBERS | 演奏者名簿

指揮 …… 大井剛史、佐々木新平、時任康文、船橋洋介、松井慶太、和田薫、和田一樹  
 司会 …… 中橋愛生  
 演奏 …… 東京佼成ウインドオーケストラ、東京吹奏楽団  
 コンサートマスター …… 林田祐和（東京佼成ウインドオーケストラ）、粟生田直樹（東京吹奏楽団）

Piccolo …… 丸田悠太	Trumpets …… 奥山泰三、本間千也*、大野学、杉本正毅、守岡未央、川村大、清川大介、久保亜莉沙、多田将太郎、中村諒、松田美由貴、箕輪瑠璃子、森山一輝
Flutes …… 林広真、白井源太、河野彬、白石法久、杉山翼	Horns …… 堀風翔*、小助川大河、小山千鶴、太見川満、鈴木希恵、廣川実、木村隆、橋本佑香
Oboes …… 宮村和宏*、川内優子、桜田昌子	Tenor Trombones …… 今村岳志*、小田愛美、安久津理子、エンズレンション陸、櫻井俊、仲田絢、東川暁洋、渡邊善行
English Horn …… 梅枝理恵	Bass Trombone …… 恵藤康充
Bassoons …… 福井弘康*、神山純、吉江那葉、向後崇雄	Euphoniums …… 岩黒綾乃、庄司恵子
ContraBassoon …… 君塚広明	Tubas …… 池田佑太、野本和也、久保和憲
Clarinet in E b …… 松生知子	Contrabass …… 黒岩哲
Clarinet in B b …… 林裕子*、野田祐太郎、船橋菜里、粟生田直樹、田中かずな、田中美佳子、徳武敦、畑中真理、日向秀司、星野均、山崎泰子、小野寺緑、河西拓也、木内倫子、北岡羽衣、後藤椋花、近野千昌	Timpani …… 坂本雄希
Alto Clarinet …… 園田知潤	Percussion …… 渡辺壮*、和光光世、杉山智恵子、中村祐子、伊藤拓也、若下美香、大場章裕、柴原誠、村居勲
Bass Clarinets …… 及川薫、渡辺繁弥	Harps …… 小橋ちひろ、操美穂子
Contra Alto Clarinet …… 神田将吾	Celesta …… 巨瀬励起
Contra Bass Clarinet …… 石田勝	Piano …… 神原颯大
Alto Saxophones …… 林田祐和*、佐藤渉、原ひとみ、五十嵐健太	Organ …… 新山恵理
Tenor Saxophone …… 松井宏幸	
Baritone Saxophones …… 西尾貴浩、本堂誠	

東京佼成ウインドオーケストラ団員 東京吹奏楽団 団員 \*東京佼成ウインドオーケストラ演奏委員

### 東京佼成ウインドオーケストラ

桂冠指揮者 …… フレデリック・フェネル  
 特別客演指揮者 …… トーマス・ザンデルリンク  
 楽芸員 …… 中橋愛生  
 常任指揮者 …… 大井剛史  
 首席客演指揮者 …… 飯森範親

#### コンサートマスター

林田祐和

#### 副コンサートマスター

宮村和宏

#### インスペクター

栃尾克樹

丸田悠太

今村岳志

#### 企画委員

原浩介

#### 役員

理事長 …… 勝川本久

常務理事 …… 八反田弘

#### 事務局

事務局長 …… 勝川本久

事務局次長 …… 堀風翔

事務局長補佐 …… 八反田弘

#### 制作

篠原華

大橋証太（ステージマネージャー）

羽田紀子（ライブリアン）

#### 営業

森ゆかり

専務理事 …… 堀風翔

監事 …… 清水宏一

#### 広報

尾崎真也

荻沼美帆（チケットサービス）

#### 賛助会・サポーターズクラブ

荻沼美帆

尾崎真也

佐原由起

#### 総務

佐原由起

竹内正道

岩崎友香（パーソナルマネージャー）

#### 経理

竹内正道

水本孝枝



Xeno

第168回	2025年 4月13日[日] 開演14:00(開場13:15) 東京オペラシティ コンサートホール タケミツメモリアル	指揮 飯森範親 (首席客演指揮者)
第169回	2025年 6月25日[水] 開演19:00(開場18:15) 東京オペラシティ コンサートホール タケミツメモリアル	指揮 トーマス・ザンデルリンク (特別客演指揮者)
第170回	2025年 9月28日[日] 開演14:00(開場13:00) 東京芸術劇場 コンサートホール	指揮 大井剛史 (常任指揮者)
第171回	2025年 11月23日[日] 開演14:00(開場13:00) 東京芸術劇場 コンサートホール	指揮 ダグラス・ポストック
第172回	2026年 1月11日[日] 開演14:00(開場13:00) 東京芸術劇場 コンサートホール	指揮 大井剛史 (常任指揮者) 独奏 宮田 大 (チェロ)

定期会員券 好評発売中

ホール毎に同じお席でお聴きいただける  
「東京オペラシティシリーズ」  
「東京芸術劇場シリーズ」  
の2種類をご用意しました。

席種	S席	A席	B席	C席	U25
東京オペラシティシリーズ(全2公演) 第168回～第169回	¥9,000	¥7,500	¥6,000	¥5,000	¥4,000
東京芸術劇場シリーズ(全3公演) 第170回～第172回	¥14,000	¥11,500	¥9,000	¥7,500	¥6,000

野中貿易  
いい楽器をあなたのもとへ

NONAKA

いい楽器をあなたのもとへ

総輸入元 野中貿易株式会社 総販売元 株式会社ノナカ 231-0011 横浜市中区太田町4-46



www.nonaka.com



TENOR BASS TROMBONES



NEW YSL-882 II SERIES

YSL-882II YSL-882GII YSL-882OII  
YSL-882GOII YSL-882ORII YSL-882GORII

お問い合わせ

お客様コミュニケーションセンター 管弦打楽器 ご相談窓口  
フリーダイヤル TEL.0120-132-808  
携帯電話、IP電話からは 050-3852-4087へおかけください。  
受付時間:月曜日～金曜日 10:00～17:00(祝日、センター指定休日を除く)

製品情報  
はこちら



株式会社ヤマハミュージックジャパン



Schilke Trumpet ソロイストシリーズ シルキートランペット  
Soloiste Series 限りない情熱はこれからも続きます

60年以上に亘り、最高峰のトランペットを製造するシルキー社より新しいコンセプトに基づいたソロイストシリーズが誕生しました。最大の特徴はスタンダードタイプのマウスパイプが挙げられ、それに伴いバルブケーシングも新設計されています。このSB4-OT、SC4-OTモデルはシルキー社の製作スタッフと共にテストを重ねて完成した日本から世界へ発信するオリジナルモデルです。

— シルキー・アーティスト —



杉本 正毅  
Masaki Sugimoto



守岡 未央  
Mio Morioka

SB4-OT <B♭ Trumpet>

ベル：4.875 インチ (124mm) #3 テーパー  
ボア：460 インチ (11.68mm) ML



SC4-OT <C Trumpet>

ベル：4.875 インチ (124mm) #3 テーパー  
ボア：463 インチ (11.75mm) L



発売元 株式会社 GLOBE JIN 169-0073 東京都新宿区百人町2-17-7 TEL 03-5389-5111 FAX 03-3367-4810 http://www.global-hinst.co.jp カタログはこちら



世界を魅了する 豊かな響き  
ウィルソンユーフォニアム

少数精鋭のクラフトマンが長年の製作経験を生かし  
1本1本作り上げた名品は、  
まさにスイスの自然が育んだ音色の美学と言えるでしょう。

— ウィルソン・アーティスト —



庄司 恵子  
Keiko Shoji  
使用楽器：  
TA2900GP



岩黒 綾乃  
Ayano Iwakuro  
使用楽器：  
TA2900GP

ウィルソンユーフォニアム ラインナップ

Q90BS	¥935,000	TA2900 BS	¥1,892,000
Q90GL	¥858,000	TA2900 BS/GP	¥2,310,000
K56BS	¥792,000	TA2900 GP	¥3,520,000
		TA2905 BS	¥1,452,000
		TA2960 UKBS	¥1,980,000
		TA2950 UKAS-L	¥1,980,000
		FA2975 BS	¥1,892,000
		WILLSAX (受注生産)	OPEN PRICE

※価格はすべて税抜き価格です。



株式会社 GLOBE JIN 169-0073 東京都新宿区百人町2-17-7  
TEL 03-5389-5111 FAX 03-3367-4810  
http://www.global-hinst.co.jp

Willson  
カタログはこちら



Eastman-Willson  
カタログはこちら



# KOSEI レーベルを 音楽配信サービスで

iTunes、Apple Music、Spotify、Amazon Music、LINE MUSICを  
はじめとする各音楽配信サービスにて1000曲を超える楽曲を好評配信中！  
1979年の初リリース以降、ポジティブに、かつ体系的に送り出されたコンテンツは、  
質・量ともに他の追従を許さない。世界に類例を見ない吹奏楽曲の数々を配信で！

主な配信サービス



iTunes



Spotify



Amazon Music



LINE MUSIC

LINE MUSIC

株式会社 校成出版社  
〒166-8535 東京都杉並区和田2丁目7-1 普門メディアセンター  
03-5385-2311(代表)

電子書籍ECサイト

